

携帯性・耐久性の高いロケットストーブ等の アウトドアグッズ等開発に向けた 業態転換計画

INTERVIEW

有限会社宮内製作所 代表取締役の宮内保昌さまにインタビューさせていただきました。



支援を依頼しようと思った経緯

同社は、昭和34年に創業され、板金加工を中心に70年以上事業を継続してこられた。現在の社長は4代目で、デザイン設計技術を持っておられ、アウトドア用品の企画・販売をするグループ会社ASOBU(株)を立ち上げ、製品開発をしている。過去に何度か補助金申請をご自身で行い、2回採択された経験もある。それでも、なぜ当社に依頼しようと思ったのか、その理由と訊ねると、次のように答えてくれた。

「社長業に専念したかったからという一言に尽きます。補助金の申請は、書類をそろえたり、決算書の数字を拾ったりと、普段の仕事とは違う慣れないことをやるのが、とにかく大変でした。3週間くらいかかり切りになってしまうし、その間は本業に手が回らなくなってしまっていました。」

それでも採択されれば、やった努力も報われるが、必ずしも採択したことばかりではなかったそうだ。

「あれだけ時間をかけて準備しても不採択となった時は、時間を費やしたことが全て無駄となったと感じました。社長である私がもっと他にやらなければならない仕事があり、そこに集中した方が事業を推進していきます。自分にしか出来ないことに時間を割こうと決めました。」

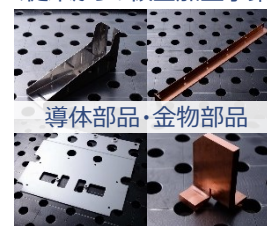


焚き火台では、
デザイン性や
技術力が
評価され、
賞も受賞



左／担当 小林
右／代表取締役
宮内さま

＜従来からの板金加工事業＞



2次元レーザ加工機の導入により
新製品開発のさまざまな展開を実施



＜焚き火台 IRORIシリーズ＞



＜薪バサミ HIMORI02＞



＜ロケットストーブ 案＞

任せてみた感想ポイント

いざ任せてみると、時間以上のメリットも感じたという。

「自分で申請書を作ると、先入観が邪魔をするんですね。コンサルタントと話をしながら計画をすると、外からの視点で事業を見て客観的な意見をいただけるので、自分では考え付かない計画になる。考えを話すことで、改めて自分の考えが整理されて、新たな発見をすることもありました」と、ご評価いただいている。

今後の期待

今後は、アウトドア関連を中心に10品目の製品を作り、ブランドを確立したあとで、最終的には防災関連の商品を提供できるようになることが目標であるという。

「売上高としては10億円を目指したいと考えています。そのためにどういった手順で事業展開していったら良いか、シェアビジョンさんには、コンサルタントとして補助金の活用支援だけでなく、事業展開を図っていくためのアドバイスをもらいたいです」

担当者のコメント

自社の強みである素材の特徴を活かしたデザイン設計力・板金加工技術をしっかり把握されており、その中で、新たなブランドを立ち上げ展開していく目標を掲げていらっしゃいます。非常に柔軟性があり、新しい取り組みへ積極的に取り組もうとされているその姿勢は、私自身も非常に勉強になります。

本計画を通じて「従業員の幸福」と「地域への貢献」を目指す宮内社長のビジョンの実現を、当社としてもできる限りサポートしていきたいと思っています。

計画に要した期間：2ヶ月 投資対象：2次元レーザ加工機

社名 有限会社宮内製作所

URL : <http://miyauchiseisaku.co.jp/>

住所：静岡県沼津市西島町3-1

事業概要：金属製品のマシニング切削加工、旋盤切削加工、曲げ加工、シャーリングによる切断加工、複雑形状へのレーザー加工、溶接加工等

